

# 奈良国立文化財研究所概要



1983

## 目 次

沿革	付年表	2
組織		3
機構		3
定員		3
役職職員		4
予算		4
歳出予算		4
科学研究費補助金		4
施設		5
土地及び建物		5
事業		7
建造物研究室		7
歴史研究室		7
平城宮跡発掘調査部		8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部		9
飛鳥資料館		10
埋蔵文化財センター		11
普及活動		12
公開講演会		12
現地説明会		12
用行物		12
蔵書及び資料		14

## 沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれることによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

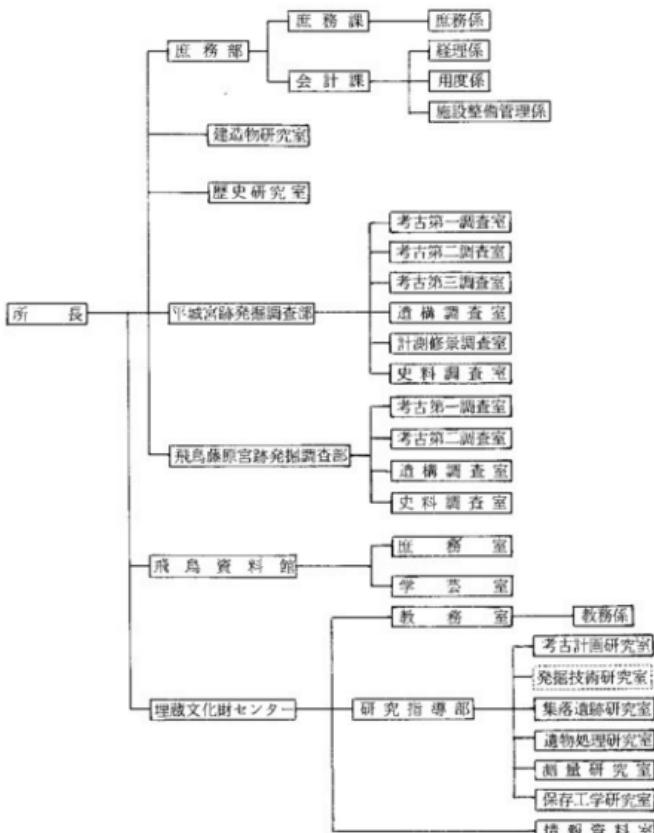
### 年表

昭和 26. 10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会認定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良国立文化財研究所と改称
35. 10. 15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9. 16	庶務室は庶務課となる。
38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4. 11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3. 15	飛鳥資料館開館。
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53. 10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
55. 4. 26	府舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを府舎に統合
58. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設（予定）

# 組 織

昭和58年4月1日現在

## 機 構



## 定 員

区 分	指 定 職	行 政 職(一)	行 政 職(二)	研 究 職	計
人 員	1	22	5	67	95

役職職員

予 算

### 歲出予算

(単位 千円)

区 分	56 年 度	57 年 度	58年度(当初)
人 件 費	417,384	441,202	453,378
運 賞 費	605,203	617,230	629,276
施 設 費	305,877	310,531	330,654
臨時的経費(所含純益) 修 築 費	29,600	0	0
計	1,358,064	1,368,963	1,413,308

科学研究費補助金

( ) 書きは件数(単位 千円)

区 分	55 年 度	56 年 度	57 年 度
特 定 研 究 (1)	(3) 13,000	(1) 12,000	(1) 19,500
総 合 研 究 (A)			(1) 3,300
一 般 研 究 (A)	(1) 6,000	(1) 800	
	(B)	(2) 5,700	(4) 10,300
	(C) (4) 2,300	(4) 3,760	(2) 2,400
	(D) (2) 920		
実 験 研 究 (A)	(4) 3,100	(7) 5,460	(4) 3,300
試 験 研 究 (1)			(1) 8,800
試 験 研 究 (2)		(1) 4,930	(1) 2,000
計	(6) 25,320	(6) 32,600	(4) 49,600

施設

昭和58年4月1日現在

### 土地及建筑物

名 称	土地面積	建 物 面 積		備 考
		建面積	延面積	
本館	8,860 m <sup>2</sup>	2,792 m <sup>2</sup>	6,793 m <sup>2</sup>	
平城宮跡	1,026,380	7,811	10,632	土地……文部省所管 建物……立城宮跡資料館及び復原
藤原宮跡	264,331			土地 文部省所管 256,610 m <sup>2</sup> 民有地借上 6,721 m <sup>2</sup>
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
宿舎 飛鳥資料館 部 山	1,654 1,343 311	334 225 109	378 225 153	土地 231 m <sup>2</sup> 大藏省所管を含む
合 計	1,309,755	12,592	20,698	

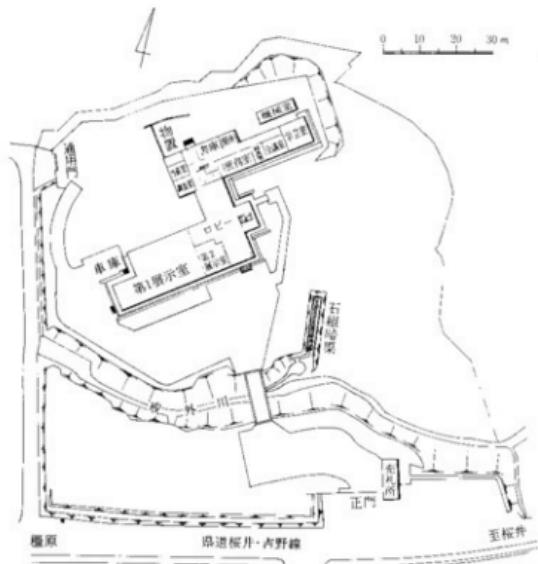




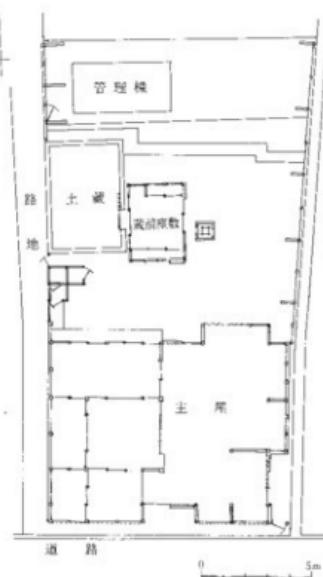
平城宮跡資料館配置図



平城宮跡復元配置図



飛鳥資料館配置図



旧米谷家住宅配置図

## 事 業

### 建造物研究室

建造物及び伝統的建造物群に関する  
調査研究とその結果の公表を行う。



建 造 物 の 調 査

### 歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の  
公表を行う。



古 文 書 等 の 調 査

## 平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



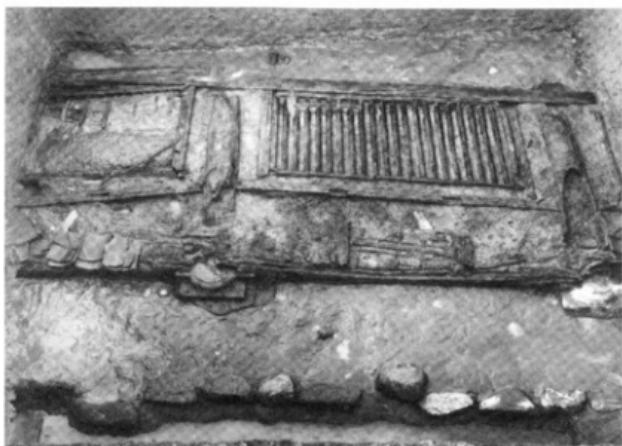
発掘された奈良時代の石敷井戸とその復元展示

## 飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・造構等の保存整理・造構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡 大極殿周辺



山田寺東回廊建物（東から）

## 飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

### 入館者数

単位人

区分		年 度			
		昭和 55 年度	昭和 56 年度	昭和 57 年度	
有料観覧	普通観覧	一 般	46,175	42,107	
		高・大学生	18,859	16,248	
		小・中学生	13,145	12,003	
	団体観覧	一 般	27,265	22,273	
		高・大学生	31,767	31,704	
		小・中学生	47,557	46,513	
計			184,768	170,848	
無 料 観 覧			8,290	8,709	
合 計			193,058	179,557	
				208,079	

## 埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和57年度までの受講者累計は1,370名である。

区分	課程	区分	課程
一般研修	一般課程	専門研修	保存科学応用課程
専門研修	集落遺跡調査課程	"	墳墓調査課程
"	土器調査課程	"	遺跡保存整備課程
"	遺跡測量課程	特別研修	埋蔵文化財基礎課程
"	環境考古課程	"	近畿地方出土木器集成研究
"	保存科学基礎課程	"	写真測量技術課程



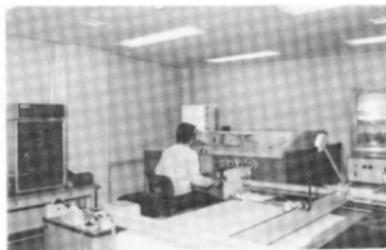
研修風景



情報処理機器 埋蔵文化財関係資料の  
情報処理を行う。



P.E.G含浸装置 ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量図化機 ステレオメトログラフE型を使用して実測図を作成する。

## 普及活動

### (1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第49回 (56.5.30.)	近世大和における町人地の形成課程 いわゆる忍冬唐草紋について—法隆寺式軒平瓦の紋様を中心として—	第51回 (57.5.29.)	藤原宮その後 —発掘後の中再開発について—
第50回 (56.11.7.)	古代造瓦技術に関する一考察 古代の建物難造技術	第52回 (57.11.20.)	飛鳥石神遺跡の発掘調査 伝統的町並の再生 奈良三彩の造形意匠について

### (2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会年月日	発掘調査場所	説明会年月日	発掘調査場所
56. 6. 6	平城宮跡第129次	57. 3. 20	平城宮跡第136次
8. 8	藤原宮跡第34次	6.19	石神遺跡
8.22	平城宮跡第132次	6.26	平城宮跡第139次
9.26	松原寺露堂跡	10.30	山田寺跡
10.17	大宮大寺第8次	11.27	松原寺跡
11.14	石神遺跡・水落遺跡	12.18	平城宮跡第140次
11.28	平城宮跡第133次	58. 3. 5	平城宮跡第146次
57. 2.20	水落遺跡		

### (3) 刊行物

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師蓮慶の研究	1971	研究論集 I
	第2冊 修学院離宮の復原的研究	1973	研究論集 II
1955	第3冊 文化史論叢	1974	第23冊 平城宮発掘調査報告 VI
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究	1975	第24冊 高山一町並調査報告一
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	1975	第25冊 平城京左京三条二坊
1958	第6冊 中世庭園文化史	1976	第26冊 平城宮発掘調査報告 VII
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	1977	第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 I
1959	第8冊 文化史論叢 II	1978	研究論集 III
	第9冊 川原寺発掘調査報告	1979	木曾奈良井一町並調査報告
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥散益宮跡発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査の記録
1961	第11冊 院家建築の研究	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 II
1962	第12冊 川原寺阿弥陀仏快慶	1978	第32冊 研究論集 IV
	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察	1979	第33冊 イタリア中部の一山岳集落における
	第14冊 唐招提寺藏「レース」と「金龜舍利塔」		民家調査報告
	に関する研究	1978	第34冊 平城宮発掘調査報告 IX
	第15冊 平城宮発掘調査報告 III	1978	第35冊 研究論集 V
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告 IV	1979	第36冊 平城宮整備調査報告 I
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告 IV	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 III
	第18冊 小堀遠州の作事	1979	第38冊 研究論集 VI
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告 X
1969	第20冊 名物製の成立	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告 XI

## 口、史 料

年度	名 称	年度	名 称
1954 第1冊 南無阿弥陀仏作善集（複製）	1977 第12冊 藤原宮木簡一 図版・解説		
1955 第2冊 西大寺収尊伝記集成	第13冊 日本美術院形刻等修理記録IV		
1963 第3冊 仁和寺史料 寺誌編一	第14冊 日本美術院形刻等修理記録V		
1964 第4冊 俊乗坊遺跡史料集成	第15冊 東大寺文書目録第一卷		
1966 第5冊 平城宮木簡一 図版	第16冊 日本美術院形刻等修理記録VI		
1967 第6冊 仁和寺史料 寺誌編二	第17冊 平城宮木簡二 図版・解説		
1969 第7冊 平城宮木簡一 解説（別冊）	第18冊 藤原宮木簡二 図版・解説		
1970 第7冊 唐招提寺史料一	第19冊 東大寺文書目録第二卷		
1974 第8冊 平城宮木簡二 図版・解説	第20冊 日本美術院形刻等修理記録VII		
第9冊 日本美術院形刻等修理記録I	第21冊 東大寺文書目録第三卷		
1975 第10冊 日本美術院形刻等修理記録II	第22冊 七大寺巡礼私記		
1976 第11冊 日本美術院形刻等修理記録III	第23冊 東大寺文書目録第四卷		

## 八、飛鳥資料館図録

## 二、基準資料

年度	名 称	年度	名 称
1976 第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1973 第1冊 瓦編1 解説		
第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	1974 第2冊 瓦編2 解説		
1977 第3冊 日本古代の墨跡	1975 第3冊 瓦編3		
1978 第4冊 日本古代の墨跡 銘文篇	1976 第4冊 瓦編4		
第5冊 古代の薬生仏	1977 第5冊 瓦編5		
1979 第6冊 飛鳥時代の占墳—高松塚とその周辺—	1978 第6冊 瓦編6		
1980 第7冊 日本古代の磯尾	1979 第7冊 瓦編7		
1981 第8冊 山田寺展	1980 第8冊 瓦編8		
1982 第9冊 高松塚拾年			

木、地 図（大梯尺図、縮尺1:1,000、航空写真より図化）

区 分	図化面数	図 化 地 域
平 城 京 地 域	64	押熊、桑原、中山、外山、西列、波谷、赤井谷、秋篠寺、山陵、西畠、歌姫、コナベ、ワツナベ、黒髪山、野神、西大寺、平城宮(仁)、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(仁)、宝来、青原、尼ヶ辻、北新、田村、藏ノ町、三条、興福寺、春日野、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、大安寺(仁)、京終、元興寺、紀寺、大池、薬師寺、西ノ京、吉、八条、神殿、肘塚、人體冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登板、野垣内、下三橋、上三橋、北ノ庄、今市、帶解(仁)、佐保庄、竹之内
下ノ 通 地 域	46	大師、若狭、美濃庄、升戸野、池田、藏ノ庄、番条、中城、発志院、馬司、伊豆七条、兩八条、中、宮堂、二階堂、西嘉幡、嘉幡、庵治、鶴幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦ノ庄、南阪手、多、笠鏡、新庄、西垣内、額田郡、額田郡北、蓬垣内、穴闇、長楽、保田、唐院、沢、人野、小柳、大場、乙木(仁)、佐保庄、竹之内
飛 鳥 跡 原 地 域	41	耳成山、西之宮、今井(仁)、小原、鴨公、高殿北鄙、慈夫、木殿、飛驒、高殿、香久山、池尻、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、烏屋、益田池、見瀬、和田、豐浦、飛鳥寺、八鉄、越、野口、立部、橘寺、岡寺(仁)、真弓、植前、上平田、祝戸、坂田、観覚寺、栗原、大根田、東常門
計	151	

その他、編集図（縮尺1:2,000）

平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(仁)跡、五条野、飛鳥、若槻莊、池田莊、小東莊、乙木莊

へ、年報

1958～1982 每年1冊 計25冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975～1982 每年数冊 計40冊

蔵書及び資料

蔵書

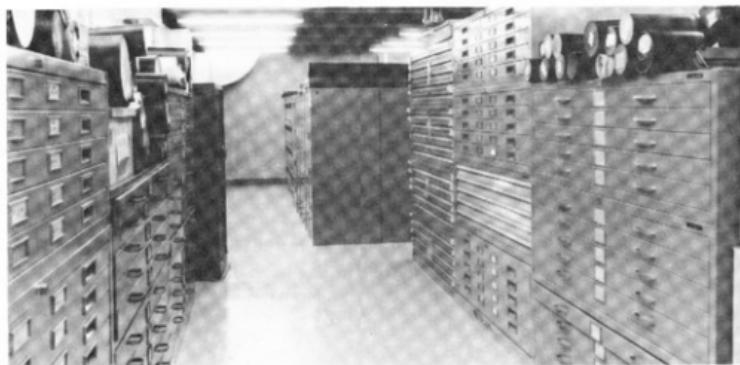
66,836 冊(昭和57年度末現在)

区分	種別	購入	寄贈	計
57年度	和漢書 洋書	2,834 357	3,086 87	5,920 444
累計	和漢書 洋書	33,385 3,862	28,952 637	62,337 4,499

資料

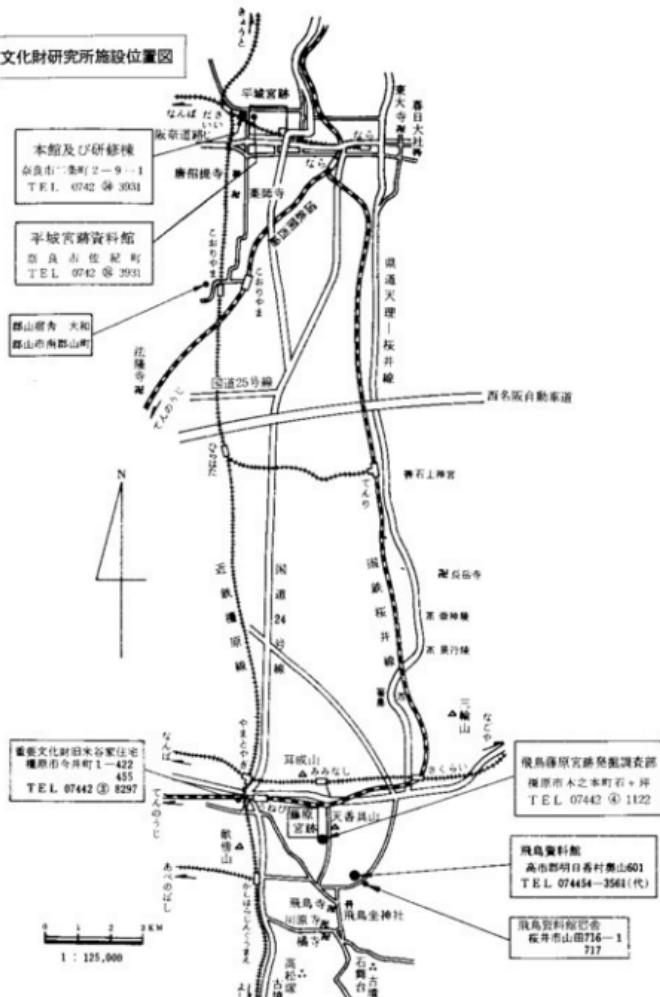
243,358 点(昭和57年度末現在)

区分	キヤビネ	スライド	ライカ	プローニー	マイクロフィルム	その他	計
57年度	3,779	5,293	3,376	2,365	22	36	14,871
累計	83,884	67,635	51,167	31,248	1,808	7,616	243,358



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガなどを保管

### 奈良国立文化財研究所施設位置図



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大宮大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	靈龜 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豐浦宮に即位	718	義孝 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖德太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小聖田宮に遷る	739	11	法隆寺多羅、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	蘇我宮に遷る。平城宮大極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に遷る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平 4	東大寺大仏頭眼供養
639	11	百濟大寺を造り始める	755	勝宝	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小聖岡宮に遷る	759	天平 3	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	皇子	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豈崎宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇子等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平 1	西大寺を造る
655	齊明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護	西隆寺を造る。泉院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る		景雲	
667	天智 6	近江大津宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
672	天武 1	飛鳥淨御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	薬師寺を造り始める。播磨尼房焼失			
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る			
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(裏表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

---

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和58年7月1日  
発行 奈良国立文化財研究所

---

